

「花いかだ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「ハナイカダ」という植物がある。葉の上に花を咲かせる、誠にかわった植物だ。初夏に花を咲かせる、この不思議な植物に、私は子どもの頃から興味を持っていた。果実も葉の上につく。葉を筏(いかだ)に見立てた姿から、この名がついた。



「ハナイカダ」 *Helwingia japonica* (ハナイカダ科)

「花いかだ」には、もう一つの意味がある。池や川の近くにある桜樹から散った桜の花びらが、水面に漂う様子を表した、誠に美しい言葉だ。



「大横川の花いかだ」 門前仲町駅からすぐの、「黒船橋」からの眺め。ここは有名な桜の名所だが、桜が散る時期にも、もう一度美しい景観を楽しめる。



大横川は海に直接つながっていて、深さもかなりあるので、流れは非常にゆったりとしている。東京湾の潮の満ち引きで、ゆるやかな流れができているのだ。時々、クラゲが迷い込んでいることもある。



大横川の岸には、たくさんのソメイヨシノがあるので、桜が散る時期には水面がものすごいことになる。激烈な「花いかだぶり」である。この日も、水面が見えないほど、花びらでギッシリと埋まっていた。

流れの速い瀬のようなところをでは、花びらはあっという間に流れ去ってしまう。池や沼のような静水では、花びらは静止したままだ。大横川のような、ゆったり流れる花いかだは、珍しい景観だろう。